

小学校五年

チャレンジ 話すこと・聞くこと

この音声問題は、第五学年国語問題の冒頭に放送するものです。

はじめに、話すこと・聞くことにチャレンジしましょう。今から一回だけ、音声による問題を放送します。よく聞いて、あとの問題に答えてください。問題用紙は開かないでください。聞いていて大切だと思うことは、表紙のあいているところにメモをしてもかまいません。

平成小学校の五年生は、総合的な学習の時間に、川の環境についての学習を進めています。野口さんたちのグループは、絶めつが心配されている「クロメダカ」が住むことのできる環境を作ろうというテーマで取り組みました。そして、学習のまとめとして、全校のみんなにも環境を守ることの大切さを伝えるために新聞を作ることになりました。

そこで、地域に住んでいらっしやる新聞記者の吉田さんを学校にお招きし、新聞記事の書き方について、お話をうかがいました。インタビューの内容や方法に気を付けて聞きましょう。

野口 「こんにちは。今日は、おいでいただきありがとうございます。さっそくですが、吉田さんは新聞記事を書くとき、どんなことを一番大事にしていっしょにいますか。」

吉田さん 「新聞記事は『正しい情報』をもとに『事実』を正確に伝えなければなりません。そういうことから、わたしが一番大事にしていることは、新聞を読んでもくれる人に事実が正しく、分かりやすく伝わるように工夫することです。あなた方のグループが伝えたいことは、はっきりしていますか。」

有田 「はい。クロメダカが住める環境を守ることの大切さを伝えたいと考えています。どのように書くと内容がみんなに分かりやすく伝わる新聞になるのでしょうか。」

吉田さん 「そうですね。新聞は限られた紙面の中にたくさんの記事や写真などが載せられています。ですから新聞記事は、短くてまとまりのある文章にすることが大事です。見出しだったら八文字から十二文字ぐらいでしようね。一目見ただけで、記事の内容が大体分かるような見出しがよいと思います。記事の内容について言うと、一つの話題に対して二百字から四百字程度でしょう。文は短く、要点を押さえて書きましょう。一文が長く、文字ばかりの新聞だと、読む気がしないでしょう。」

野口 「よく見ると、確かに新聞の見出しは八文字から十二文字ぐらいになっていますね。見出しを読めば大体のことが分かります。では、記事の構成にはどんな工夫をされていますか。」

吉田さん 「はい。新聞記事はふだん書く文章と違って、はじめに伝えたい内容の要点を書きます。次に細かい部分について重要な順番にくわしく、説明するように書くんですよ。このように書くのは、読む人が、はじめに大まかなことが分かり、読み進めるうちにもっとくわしいことが分かるようにするためです。」

インタビューは、まだ続きますが、放送はこれで終わります。
それでは、問題用紙を開いてください。